

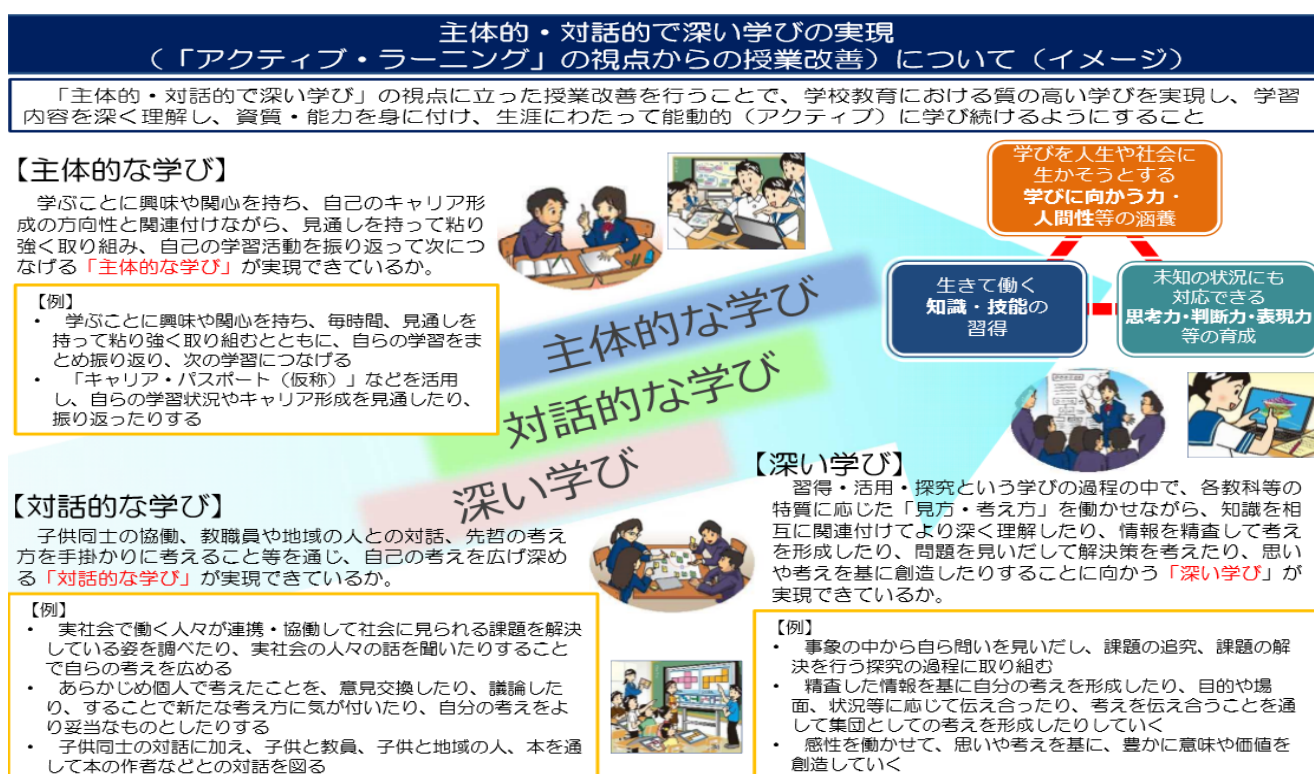
学校改革プロジェクト委員会（研究推進）通信

平成29年10月3日

アクティブラーニングがどうしても必要になるのか？

普通科における教育については、生徒自らの人生や社会の在り方を見据えてどのような力を主体的に育むかよりも、大学入学者選抜に向けた対策が学習の動機付けとなりがちであることが課題とされています。現状の大学入学者選抜では、知識の暗記・再生や暗記した解法パターンの適用の評価に偏りがちなために、高等学校における教育が、小・中学校に比べ知識伝達型の授業にとどまりがちであったり、卒業後の学習や社会生活に必要な力の育成につながっていないと指摘されています。つまり、高等学校における授業が受験のための「知識の詰め込み」となってしまうことで、一方的な講義方式になり、生徒の「学ぶ意欲」や「自ら学ぶ力」を育成できていないということが課題となっているということです。大学入学者選抜の改革が実施される理由も、知識の詰め込み型の授業になっている高等学校に対して授業方法の転換を求めた結果ではないでしょうか。

今後の高等学校における教育活動に求められていることは、義務教育までの成果を確実につなぎ、一人ひとりに育まれた力を更に発展・向上させることとされています。（小・）中・高連携を活かしながら、義務教育で実施されているアクティブラーニングを、高等学校にどのように取り入れていくかが、授業改善の視点の1つになるのではないのでしょうか。下記のイメージ図を参考に、アクティブラーニングの視点をもって授業改善に挑戦してください。



第2回・プチ授業研究会 橋本先生が立候補してくださいました！ 視聴覚室の使い方も分かります。

10月10日（火曜日）7限目 橋本純 教諭 世界史A 視聴覚室にて

テーマ「産業革命」 産業革命について映像資料を見ながら、産業革命の光と影を理解する

授業参観のみでも大丈夫です！授業研究会は、その場でのワイガヤ会談にします。